10月百貨店販売11%増、高額品など好調 関東1都10県

#関東 #茨城 #栃木

2022/12/21 19:09

関東経済産業局は21日、10月の1都10県の小売り販売動向を発表し、百貨店やスーパーなど全6業種が前年同月を上回った。政府が10月から新型コロナウイルス対策で観光促進策「全国旅行支援」を実施したほか、水際対策の緩和で外国人旅行客が増加し、気温の低下で秋冬物衣料などが好調だった。

百貨店販売額は11%増の2209億円（全店ベース）で、8カ月連続で前年を上回った。既存店ベースは12%増。気温の低下により、秋冬物衣料が好調だったほか、バッグや時計など高額品も売れた。スーパーの販売額は3%増の5518億円で2カ月連続でプラス。既存店ベースは2%増だった。原材料高に伴い飲食料品などが値上げされ、売り上げが増えた。

コンビニは6%増（全店）と11カ月連続で前年を上回った。全国旅行支援などで消費者の外出機会が増え、おにぎりや弁当の販売が好調だった。キャラクター玩具も売れた。家電大型専門店の販売額は行楽需要が増え、カメラ類が好調で微増となった。

ドラッグストアは化粧品が売れて7%増。ホームセンターは3%増と4カ月ぶりに前年を上回った。野菜などの園芸用品が好調だった。

個人消費全体の基調判断は「持ち直している」と据え置いた。関東経産局は「管内の経済状況は回復基調にある。ただ海外の景気動向がどう影響するか、価格転嫁が十分されてなかったり、人手不足感が強まったり、リスク要因もある」とみている。